

中部圏ビジョンのアウトラインについて（案）

2024年2月29日
経済委員会事務局

中部圏ビジョンの構成について

第Ⅰ部 2050年中部圏ビジョン

1. 2050年の社会（人口構造と経済規模）
2. 2050年の社会（科学・情報技術面からの問題解決の可能性）
3. ありたい2050年未来社会（日本全体）
4. ありたい2050年未来社会（中部圏）

第Ⅱ部 中部圏が目指す具体的な方向性・取り組み

1. 産業の進化と多様化
2. 人材と働き方の進化
3. 持続可能な地域社会の形成

第 I 部 : 2050年の社会

1. 人口構造と経済規模

(1)人口減・少子高齢化・労働力希少社会

- ・ 2070年87百万人の日本社会へ一気に急降下 (2050年では105百万人)
- ・ 併せて高齢化、労働力希少社会へ
高齢化：2020年28%→37%
生産年齢人口：2020年75百万人→55百万人
- ・ 中部圏人口は全国の13%
- ・ 動態はほぼ相似形で変化していくと想定される

(2)日本の経済規模の縮小

- ・ GDP規模は至近では微増 (2022年のGDP規模は1994年の1.1倍)
- ・ 相対的にも日本のGDPの世界GDPに占めるシェアは大幅に低下 (1994年：17.8%→2022年：4.2%) IMF値
- ・ 中部圏の域内総生産は全国の14.5% (2020年度)

GDPの拡大には相当の生産性向上が必要だが、一方で人口オオナスの影響は避けられない



人口規模・構造に応じた社会への再構築の必要性

2. 科学・情報技術から問題解決の可能性

問題解決に向けた可能性を公表されている各種未来予測から抽出

(1)リアルとバーチャルの融合

- ・ 人が身体、脳、空間、時間の制約から解放
- ・ 各種AIロボット実現、量子技術による革新

(2)ライフサイエンス (ウェルネスの向上)

- ・ 超早期疾患予測・予防、寿命の大幅延伸

(3)食料・水

- ・ 技術革新により食糧難は起きないとの予測もあり

(4)資源・エネルギー・環境

- ・ 循環型社会への転換による制約の克服

(5)防災・インフラ

- ・ 極端風水害の脅威から解放された社会の実現

(6)フロンティア開拓 (宇宙・地底・海洋)

(7)製造業

- ・ 様々な新素材、3D印刷、バイオテックとの融合

(8)モビリティ

- ・ 多様かつ効率的な移動の確保、街づくりと連携

(9)働き方・教育・人材育成

- ・ AIによる抜本的な変化、人生百年超時代

(10)世界の重大リスク

- ・ 核戦争、生態系の破壊、AI戦争など

科学・情報技術を駆使した生産性の向上と経済活動領域の拡大が期待される

第I部：ありたい2050年未来社会

3. 日本全体

<マインドセット>

- ・未来に対する強い意志を持つ
- ・先端技術開発・イノベーションを最大限推進
- ・「人間とは何か」が問われる覚悟 他

<目標>

- ・人口減少下における持続可能性（経済・社会・環境）と経済成長の両立

<重視する価値観・考え方>

- ・人間性（AIとの対比）、多様性・包摂性、フューチャー・デザイン（将来世代の視点導入）

<日本全体のありたい姿>

- ①資本蓄積を軸とした経済の好循環
- ②人口減少スピードの緩和、供給制約克服
- ③世界に対して高齢化社会のモデルを示す
- ④AI時代に対応した学校教育再構築
- ⑤多様な生き方・働き方によるウェルビーイング達成
- ⑥持続可能性の高い自立・分散型と循環型のハイブリッドな社会の形成
- ⑦脱炭素・循環経済・自然再興（ネイチャーポジティブ）の統合的な実現
- ⑧人口減に対応した適正な社会インフラの維持・形成、レジリエンスを強化した安全安心な社会
- ⑨東京一極集中是正（大規模災害時にも日本の中核機能が麻痺しない社会）
- ⑩世界に対してソフトパワーを発揮し、世界の平和と発展に貢献

4. 中部圏

～世界中から人・モノ・カネ・情報を引き付ける魅力と活力のある地域～

<マインドセット>

- ・地域の独自性に価値があることを認識し、地域資源・資本を活かす。
- ・グローバルに考える（東京標準ではなく世界標準で）
- ・オープンマインドで国内外から多様な人材を受け入れ、チャンスを提供する。
- ・中部圏がリーダーとなり、日本に貢献（責任と行動）。

<中部圏のありたい姿>

- ①産業の進化と多様化の継続的な推進
- ②エコシステムによる絶えざるイノベーション創出
- ③特にモビリティ分野を起点に新たな価値を創出し世界を先導
- ④国内外から多様な高度人材集積。当地域での人材育成により、他地域にも高度人材を供給
- ⑤多くの来訪者を国内外から惹き付ける魅力と活力
- ⑥東京一極集中の是正を実現する広域圏の「ひな型」
- ⑦リニア開業効果・日本中央回廊の形成効果の最大化
- ⑧災害リスク（特に南海トラフ地震）対策により、レジリエンスが高く安全安心
- ⑨安心して子供を生み育てられ、高齢者・障がい者・外国人に優しい
- ⑩国内外から人を魅了する文化・芸術やスポーツ、「遊び」があり、「シビックプライド」も高い

第Ⅱ部：基本的な考え方

- ・ 中部圏の経済社会を一段と高い成長軌道に乗せていくためには、個別の産業・業種論よりも、**全体観を持った今後の活動の指針**を打ち出すべきと考える。
- ・ 経済・社会・技術が急速に変化し、産業の境界もなくなりつつあるなか、中部圏でリードすべき個別の産業分野を特定することは妥当性に乏しい。
- ・ 中部圏において経済成長と持続可能性の両立を図り、**人口減少下においても経済的・精神的に豊かで活力ある社会**とするためには、その基盤となる、産業・人材・社会構造のあり方・施策を打ち出すことが重要である。
- ・ そこで、2050年を見据え、中部圏が目指す具体的な方向性・取り組みの柱として「**産業の進化と多様化**」、「**人材と働き方の進化**」、「**持続可能な地域社会の形成**」の3つを立てる。

第Ⅱ部：中部圏が目指す3つの方向性・取り組み

1. 産業の進化と多様化

～既存産業の高付加価値化と新規領域の開拓～

- ・モノづくりで発展してきた中部圏として、既存産業の高付加価値化（進化）と製造業（自動車産業）からの多様化を図る

2. 人材と働き方の進化

～労働力希少社会への対応とウェルビーイングの達成～

- ・人口が大きく減少していくなか、人（ヒト）を成長の源泉と位置づけ、中部圏は「人材・働き方」においても先進地域を目指す

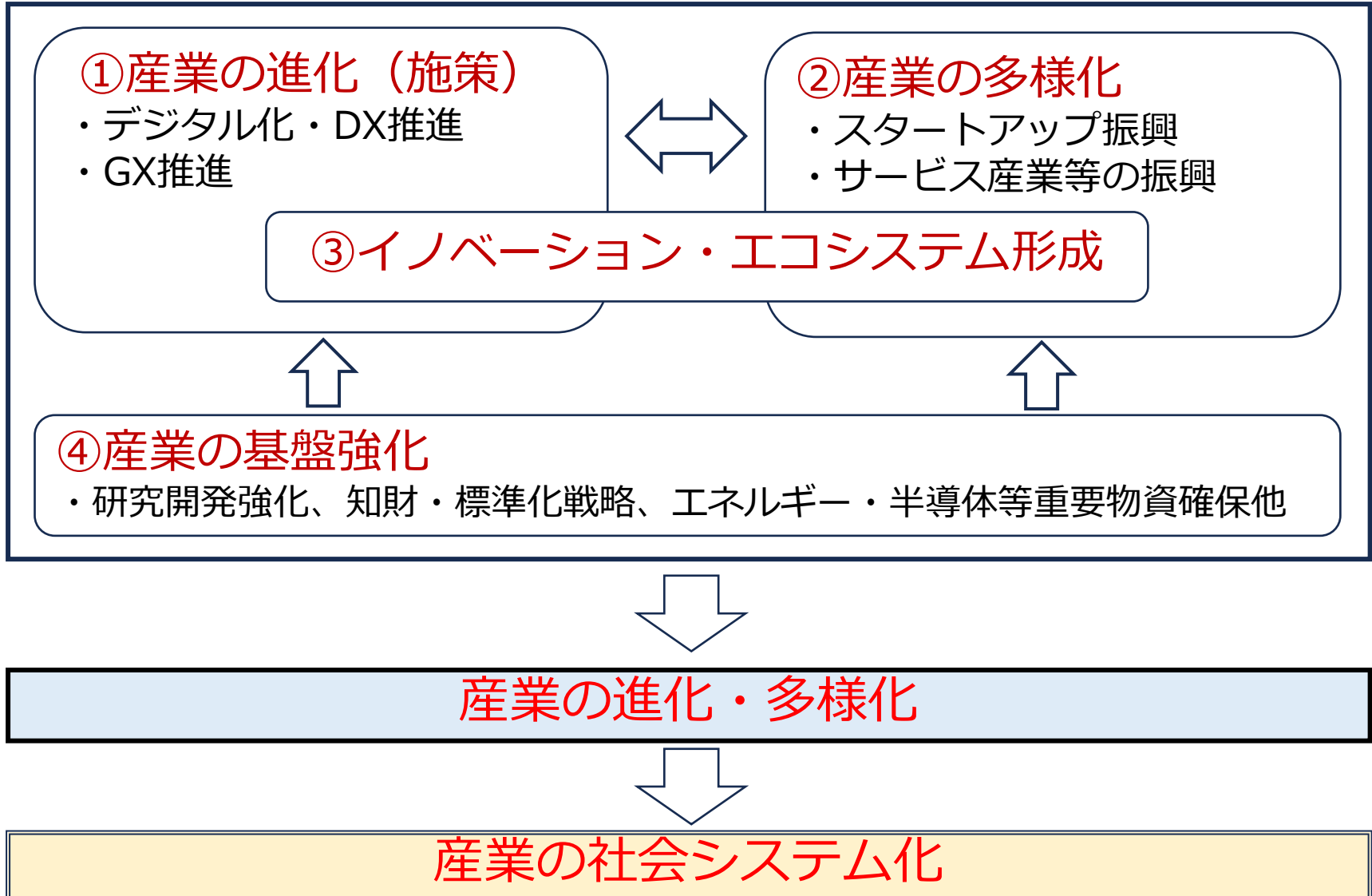
3. 持続可能な地域社会の形成

～自立分散型と循環型のハイブリッドな社会の形成～

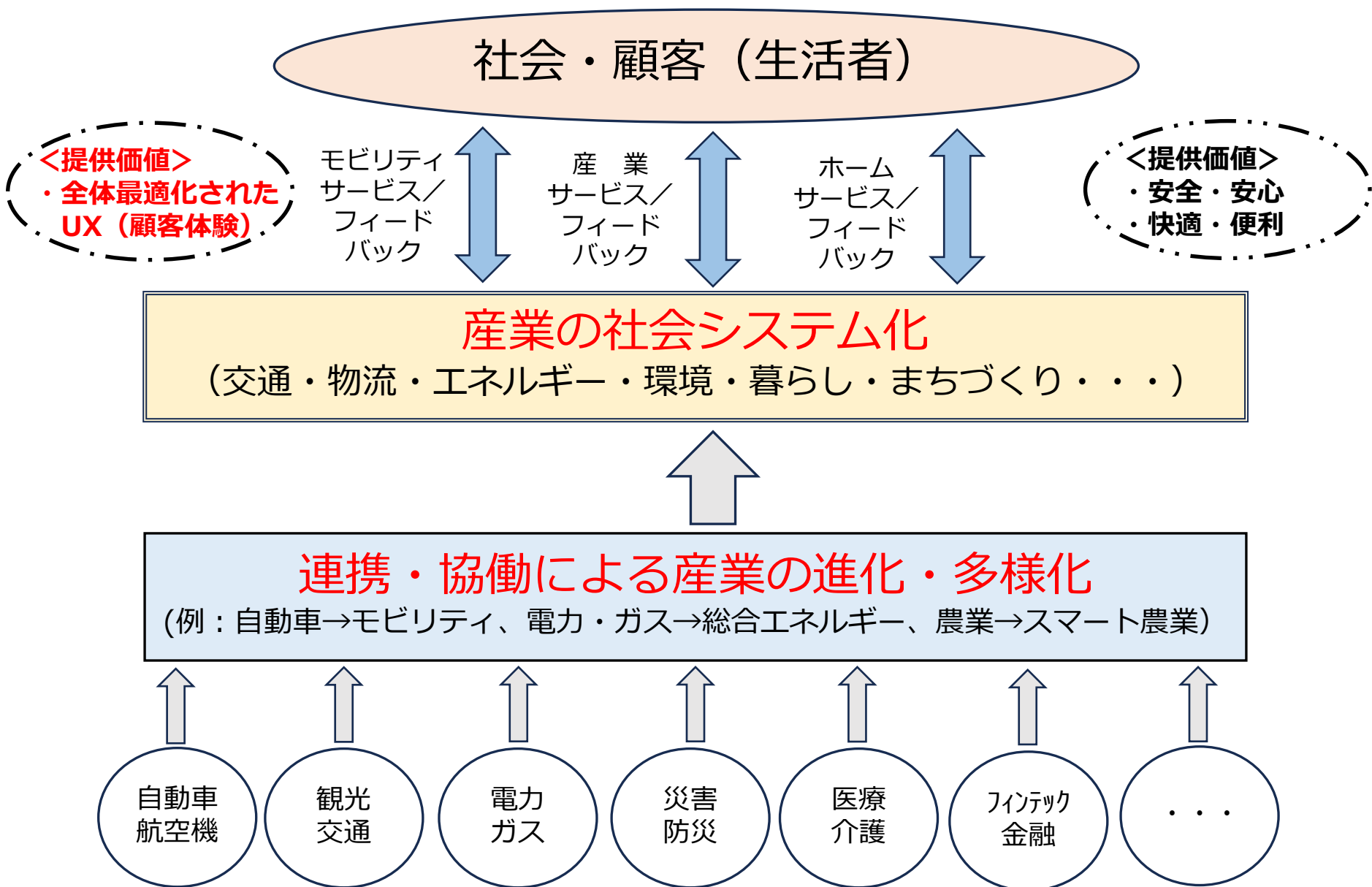
- ・リニア開業・日本中央回廊形成効果を活かした圏域の活性化を図る
- ・中部圏が東京一極集中の是正を実現する「ひな型」を示す地域となる

「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」の構成

産業の進化と多様化を促進し、産業の社会システム化による新たな価値を提供

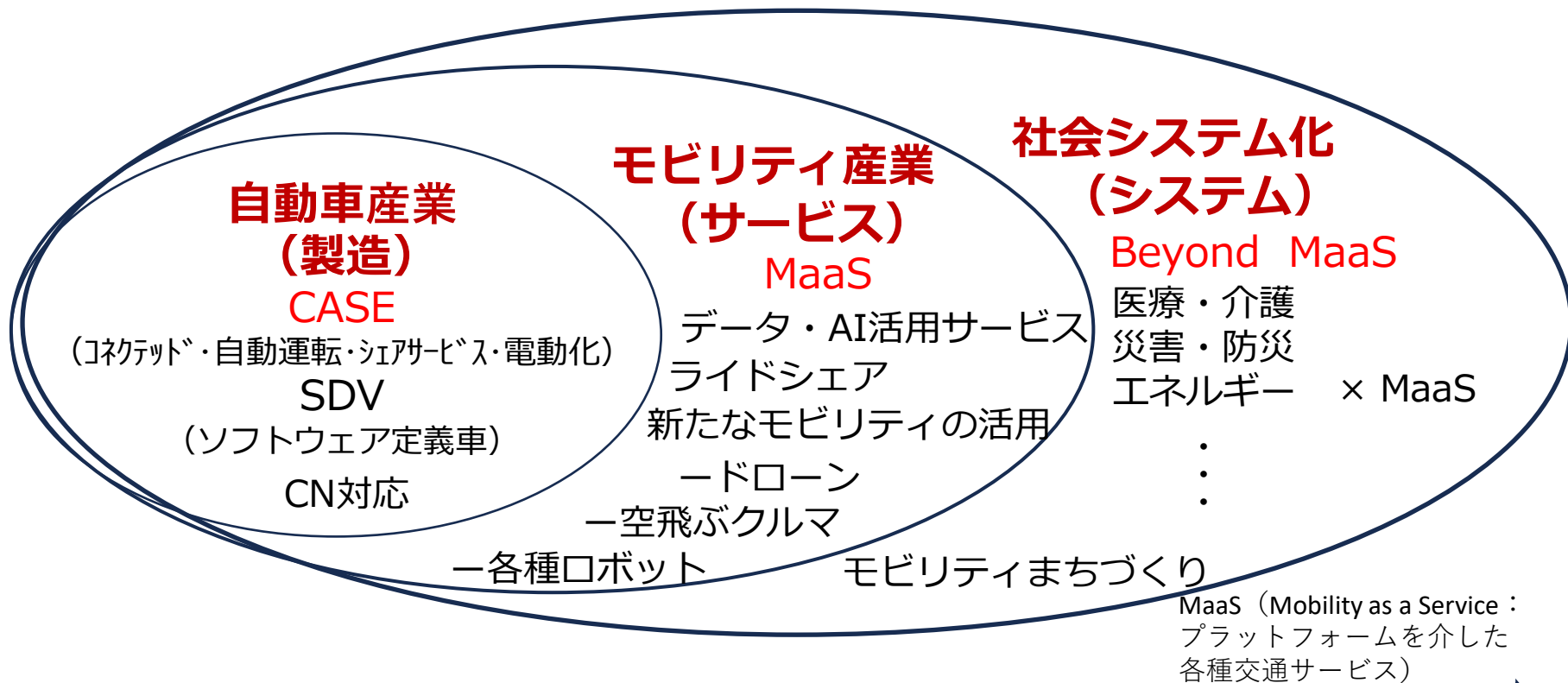


「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」：社会システム化による新たな価値の提供



「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」：モビリティの事例

自動車産業からモビリティ産業、さらには社会システム化へ



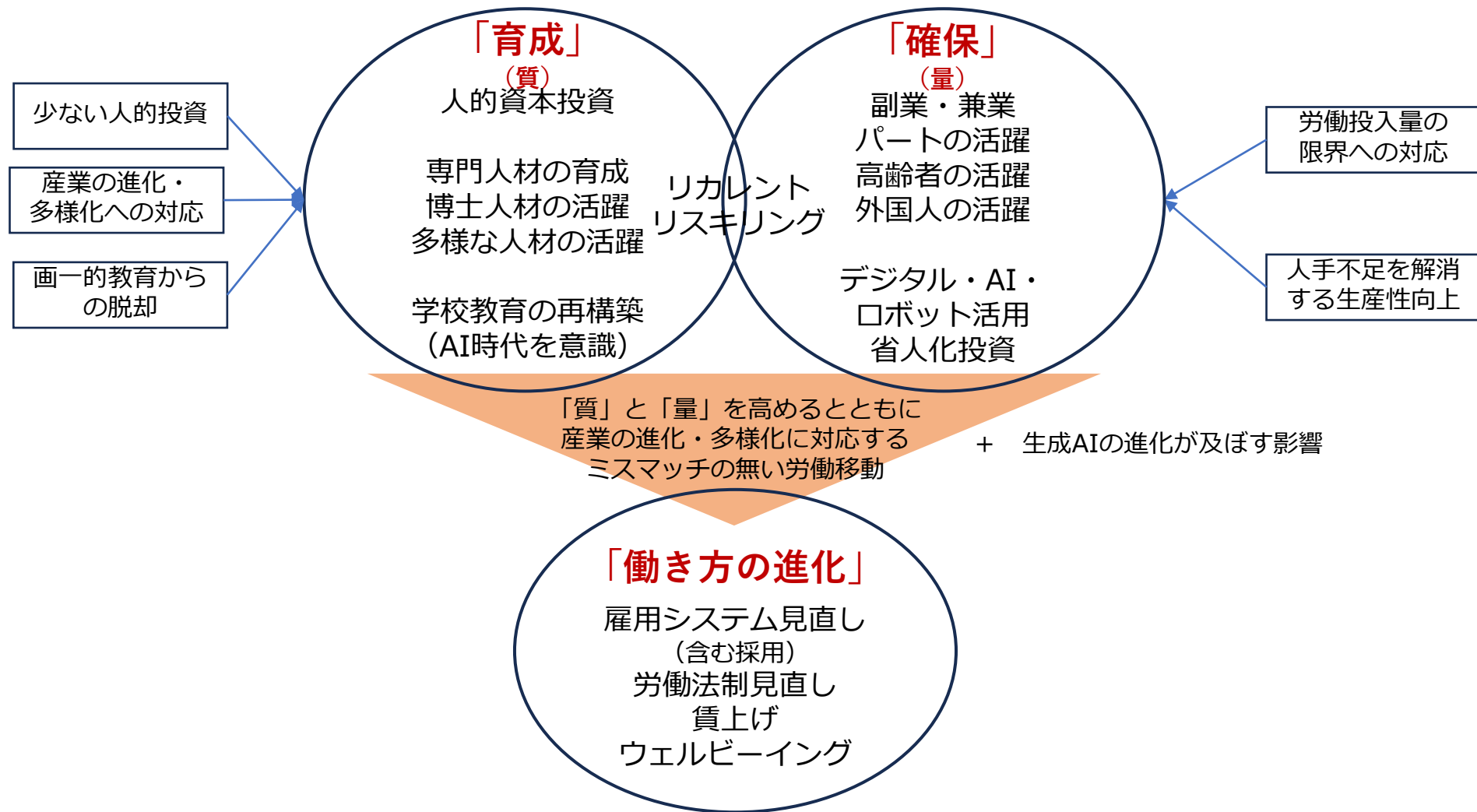
産業の進化：デジタル化・DX、GX、イノベーション・エコシステム形成

産業の多様化：新技術・新産業創出（スタートアップ振興）、サービス産業等の振興

産業の基盤強化：研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他

「Ⅱ. 2. 人材と働き方の進化」の構成

人材の「育成（質）」と「確保（量）」に着目し、これらをもつめる「働き方」を進化



「Ⅱ. 3. 持続可能な地域社会の形成」の構成

「1.産業」「2.人材」に加え、中部圏の地域社会の形成に向けた取り組みに、リニア・日本中央回廊の効果最大化を組み合わせ中部圏の持続可能性を各段に高める

1. 産業の進化と多様化

2. 人材と働き方の進化

持続可能性を高める社会システムの構築

適正なインフラの維持・形成

レジリエンス（防災・減災）の強化

自立分散型社会システムの導入促進（モビリティまちづくり等）
脱炭素・循環経済・ネイチャーポジティブ（自然再興）
魅力ある地域づくり 等

新たな環状道路、東西軸・南北軸の整備、港湾機能の強化
中部国際空港第二滑走路の整備
老朽化インフラへの対応 等

南海トラフ地震・激化する風水害へのハード・ソフト面での備え 等

デジタル化DX推進



組み合わせることで中部圏の持続性が各段に向上

リニア開業効果・日本中央回廊の形成効果の最大化

＜第3次国土形成計画（全国計画）＞
全国的な回廊計画の中でも国際競争力強化の観点で重要視

- ＜道路ネットワークの整備・活用＞
- 中間駅と南北を結ぶ高規格道路整備
 - 中間駅と高規格道路のアクセス路整備
 - 三大都市圏間の大動脈の多重化
 - ネットワーク活用による産業振興、観光振興、災害時のバックアップ機能、ライフスタイル変化、国際競争力強化

- ＜中枢機能の形成＞
- 低コスト、住みやすさなどの環境も活かした本社機能の受け入れ促進
 - 三大都市圏空港の相互補完によるリダンダンシー確保

以下、参考資料

参考資料 1 : 「地方に社会システム産業をつくる」 (工作舎) より抜粋

1. 社会システム産業とは

- ・これまでの製造業やサービス産業ではなく、日常生活や現場仕事の不便さを解消し**地域課題を解決する産業の一群**のことである。

2. 社会システム産業が生まれる分野

- ・情報通信、医療福祉、環境、防災、教育、農林漁業、観光、(交通など)まちづくり、生活文化、地域ビジネス

3. これらの分野の「市場」を「産業」にするために必要なもの

- ・「専門的・技術的職業従事者」を中心とする「**情報通信産業**」、「**研究・技術サービス業**」のノウハウ・力

4. 社会システム産業の興隆のために必要なこと

- ・製造業など既存産業がもつノウハウのモジュール化
- ・一つひとつのモジュール化した要素技術・単品製品を新しい供給源として再結合し、現実社会の支援、現実社会の問題解決を市場とする

5. 社会システム産業のビジネス構造 (B→B'→C)

- ・第一層「B=システム構築者」
- 第二層「B'=現場のサービス提供事業者」
- ×第M層「マザー・プラットフォーム」

参考資料 2 : Toyota Mobility Conceptについて



「モビリティ3.0」（社会システムとの融合）について

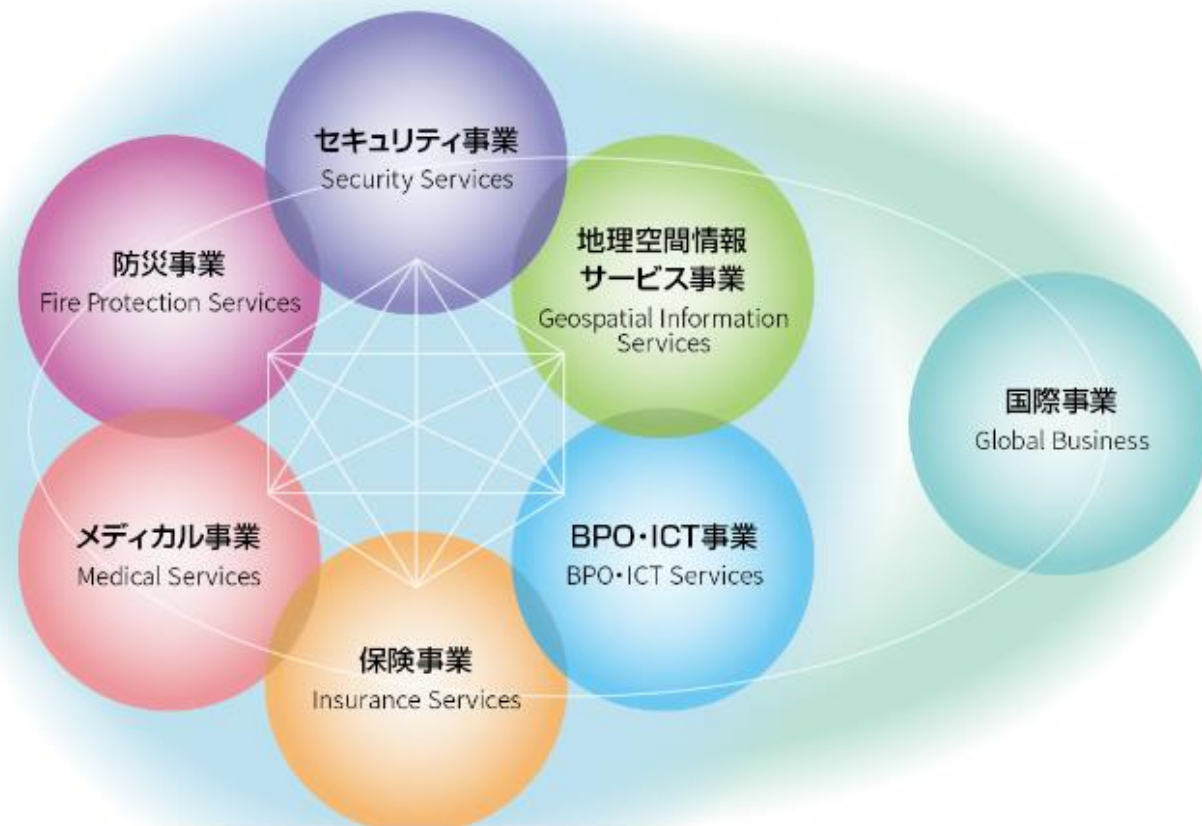
- ・ エネルギーや交通システム、物流、暮らしのあり方まで入り込み、**街や社会と一体となったモビリティのエコシステム**をつくる。そして、ウェルビーイングを実現する未来。
- ・ そのために、Woven Cityでの実証実験を進めていく。
- ・ 例えば、**新しい物流の仕組みづくり**や、**街と一体となった自動運転モビリティの開発**、また、Woven Cityを起点とした、**CO2フリー水素のサプライチェーン実証**や暮らしの中で水素利用の可能性を広げる実証も進める。
- ・ デジタルを活用したこれまでの実証に加えて、2025年からは、リアルな街での総合的な実証を加速し、パートナーとともに社会実装につなげていく。

（「モビリティ・カンパニーへの変革加速 佐藤社長が語るトヨタの未来（23.4.11）」

https://toyotatimes.jp/toyota_news/new_management_policy/001.html

参考資料3：セコムのビジョンについて（1 / 2）

社会システム産業

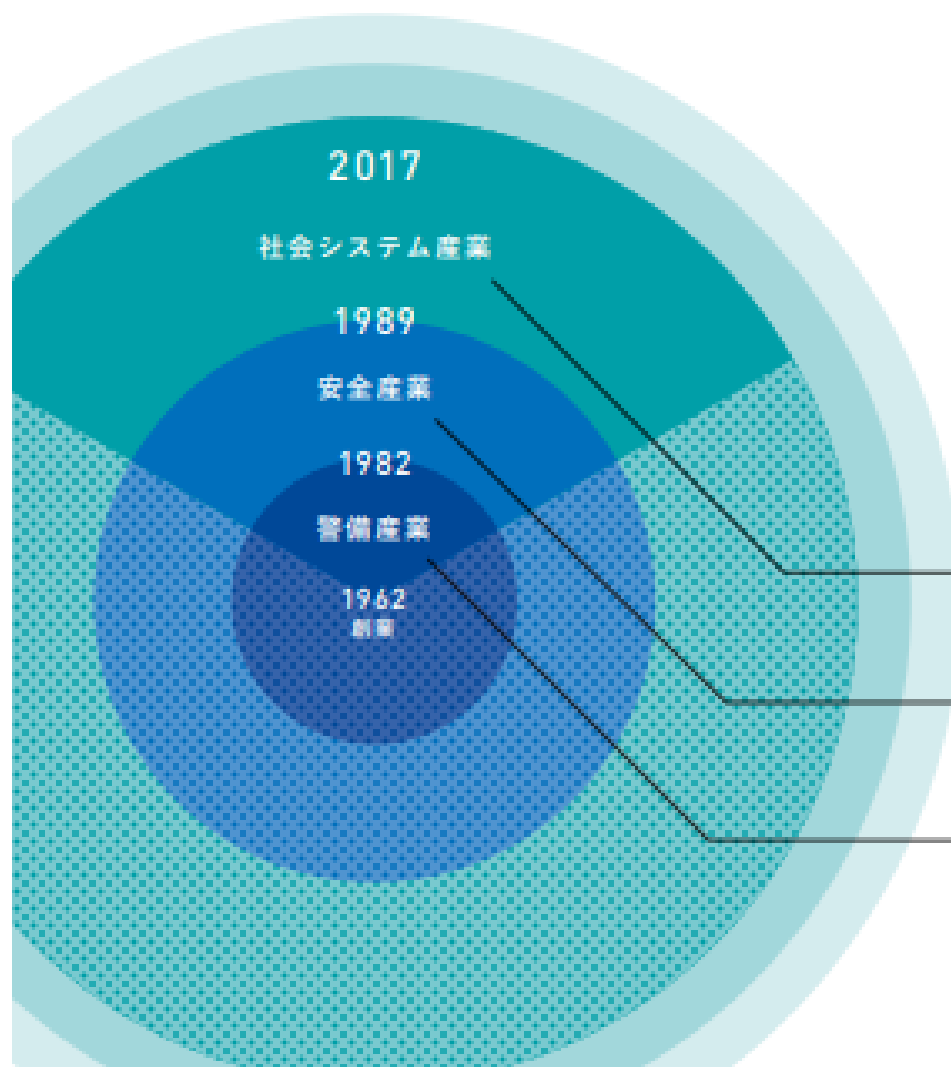


「社会システム産業」の構築をめざして

- ・セコムは、あらゆる不安のない社会を実現するために、「社会システム産業」の構築をビジョンに掲げている。
- ・「社会システム産業」とは、より「安全・安心・快適・便利」なサービスやシステムを創造し、それらを統合・融合して、社会の新しいシステムとして提供すること。

（「セコムのビジョン」 <https://www.secom.co.jp/corporate/ir/kojin03-01.html>）

HISTORY | セコムの歩み



これまでセコムは、
「あらゆる不安のない社会の実現」を使命とし、
「社会にとってよりよいサービスを創り上げたい」
という強い想いを持って、
1962年の創業より社会に信頼される
確かな安心を提供してきました。

安全・安心・快適・便利な社会を支える
サービスシステムを展開

健康や情報通信など
さらに広範な安全・安心を提供

日本初の
警備会社として創業

「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」：エネルギー（電力）の事例

電力産業から総合エネルギー産業、さらには社会システム化へ

電力産業

電力供給のみ

- ・安全・安価な電力の安定供給

総合エネルギー産業

様々なエネルギー・サービス提供

- ・天然ガスの供給
- ・再生可能エネルギー開発
- ・エネルギーコンサル
- ・海外資源権益確保
- ・エネルギートレーディング

社会システム化

コミュニティサポート インフラの提供

- ・情報銀行・データプラットフォーム
- ・コネクテッドホーム・ヘルスケア
- ・エネルギーマネジメント

- ・コミュニティづくり

産業の進化：デジタル化・DX、GX、イノベーション・エコシステム形成

産業の多様化：新技術・新産業創出（スタートアップ振興）、サービス産業等の振興

産業の基盤強化：研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他

「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」：農業の事例

スマート農業へ進化、さらには社会システム化へ

農業

様々な課題

- ・ 人手不足、高齢化・後継者不足
- ・ 小規模経営・低生産性、重労働
- ・ 環境問題、国際競争力の低下
- ・ 食料自給率の低下

スマート農業

様々な先進技術の活用

- ・ センサー技術
- ・ AI・ロボット・IoT
- ・ ドローン
- ・ データ分析・予測
- ・ 自動走行トラクター
- ・ 市場ニーズ分析
- ・ 景観や伝統文化の継承
- ・ 国土保全

社会システム化

社会課題・価値観を考慮

- ・ 持続可能な農業
 - － 環境・生態系への影響考慮
 - － 資源の効率的利用
- ・ 地域社会との連携
 - － 地域経済への寄与
 - － 雇用創出

産業の進化：デジタル化・DX、GX、イノベーション・エコシステム形成

産業の多様化：新技術・新産業創出（スタートアップ振興）、サービス産業等の振興

産業の基盤強化：研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他

「Ⅱ. 1. 産業の進化と多様化」：ヘルスケア産業の事例

次世代ヘルスケア産業へ進化、さらには社会システム化へ

ヘルスケア産業

様々な課題

- ・医療の高コスト化
- ・高齢化による需要増大
- ・品質・安全性の確保
- ・人材不足
- ・デジタル化

次世代ヘルスケア産業

医工連携の強化等

- ・デジタルヘルスケア
- ・AI・ロボット・IoT
- ・バイオエレクトロニクス
- ・3Dプリンティング
- ・遠隔医療

社会システム化

システム全体でアプローチ

- ・医療・患者データの統合・共有
- ・予防医療・健康促進
- ・ホームケア、遠隔医療
- ・地域連携・ネットワークワーキング
- ・患者参加型医療
- ・ビッグデータ分析

産業の進化：デジタル化・DX、GX、イノベーション・エコシステム形成

産業の多様化：新技術・新産業創出（スタートアップ振興）、サービス産業等の振興

産業の基盤強化：研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他